

1 『心理学研究』投稿原稿作成用クラスファイル<sup>1, 2</sup>

2 ——— 基本的な使用方法について ———

3       Class file for preparing a manuscript for  
4 submission to Journal of Psychological Research:  
5       Basic instructions

### Abstract

6       This is a LaTeX class file for preparing a manuscript  
7 for submission to the Japanese Journal of Psychological  
8 Research. Although only minimally defined, using this  
9 class file in combination with the biblatex-jpa style will  
10 significantly reduce the effort required to prepare your  
11 manuscript. Since this class file is intended for use in  
12 preparing manuscripts for submission, authors' names and  
13 affiliations are not output. However, author annotations  
14 may be used as needed.

### Keywords

15       LaTeX, class file, how to use

## Abstract の日本語訳

1     これは、『心理学研究』への投稿原稿を作成するため  
2     の LaTeX クラスファイルです。最低限の定義しかあり  
3     ませんが、このクラスファイルと biblatex-jpa スタイル  
4     を併用することで、原稿作成に必要な労力を大幅に軽減  
5     できるでしょう。なお、このクラスファイルは投稿原稿  
6     の準備に使用することを目的としているため、著者名や  
7     所属は出力されません。ただし、著者注釈は必要に応じ  
8     て使用できます。

## Keywords の日本語訳

9     LaTeX, class file, how to use

## はじめに

1    本クラスファイルは、jlreq クラスを基本に、『心理学  
2    研究』投稿原稿用の最低限の書式設定を施したもので  
3    す。日本心理学会の『投稿・執筆の手びき』(日本心理  
4    学会, 2022) に指定されているように、用紙サイズは A4  
5    縦、1 ページあたりの行数は 32 行、1 行の文字数は 25  
6    字に設定してあります。本クラスファイルでは、左余白  
7    を 40mm (4cm) に設定し、それ以外の余白については  
8    とくに指定していませんが、この状態で、指定の書式で  
9    ある「上下左右の余白は 3cm 以上」という条件はクリ  
10    アしているはずです。

## 本文の書式

### 見出し

11    本文では、中央大見出し、横大見出し、横小見出し  
12    の 3 種類の見出しを使用することができますが、それ  
13    らの見出しを作成するには、大見出しにはそれぞれ  
14    「\section{」（中央大見出し）」、「\subsection{」（横大  
15    見出し）」、を横小見出しには「\paragraph{」を使用し  
16    ます。見出し前後の空白は自動的に挿入され、中央大見  
17    出しと横大見出しが連続する場合の空き行数についても  
18    自動的に調整されます。

### 段落・見出し以外の序列

19    関連性のある内容に序列をつける場合、段落に序列を  
20    つけるか、段落内で各項目に序列をつけるかによって、  
21    つけるべき番号の書式が異なります。

22    **段落に序列をつける** 段落に序列をつけ  
23    る場合には、\plist 環境を使用します<sup>5</sup>。

1 `\begin{plist}—\end{plist}`で囲まれた部分に`\item`  
2 で段落内容を示すことで、序列付きの段落が作成されま  
3 す。この場合、各段落の冒頭には算用数字で番号がつ  
4 き、内容は`\item`ごとに改行されます。

5 1. ...  
6 2. ...  
7 3. ...

8 **段落内で序列をつける** 段落内で序列をつ  
9 ける場合には、`\llist` 環境を使用します。  
10 `\begin{llist}—\end{llist}`で囲まれた部分に`\item`  
11 で項目内容を示すと、(a)あいうえお、(b)かきくけこ、  
12 (c)かきくけこ、のように、各序列の冒頭に括弧で囲  
13 まれた小文字アルファベットがつきます。この場合、  
14 `\item` の内容は改行されず、コンマ区切りで続けて表示  
15 されます。

## 本文中の脚注

16 本文中の脚注は、`\note{}`コマンドを使用して作成し  
17 ます。`\note{}`コマンドを使用して作成した脚注番号  
18 は、表題ページの脚注<sup>6</sup> から続く値になります。これら  
19 の脚注は、原稿の末尾に`\noteshere` コマンドを置くこ  
20 とで、引用文献の次のページにまとめて記載されます。

## 句読法

21 **ダッシュ** 期間や区間を示すダッシュ（1 字分：—）  
22 は、`\dash` コマンドで作成できます。

23 **2 倍ダッシュ** 日本語表題の副題や、注釈的説明を挿  
24 入する際に使用される 2 倍ダッシュ（2 字分：——）は、  
25 `\ddash` コマンドで作成できます。

26 **2 分ダッシュ** 対句の表示や文献情報のページ範囲  
27 を示す際に使用される 2 分ダッシュ（半字分：–）は、

1 \hdash コマンドで作成できます。

## 表

2 table 環境`\begin{table}—\end{table}`を使用して作  
3 成された表は、引用文献、脚注のあとにまとめて表示さ  
4 れます。その際、1 ページにつき 1 つの表が配置され  
5 ます。

### 表の言語

6 表の言語は原則として英語と指定されており、  
7 jjpsy クラスでもそのように設定されています。  
8 そのため、table 環境で`\caption{}`コマンドを使用し  
9 た場合、その内容に含まれる英数字はイタリック  
10 体で表示されます。表の言語を日本語にしたい場  
11 合は、クラスオプションに `jpcaption` を指定し、  
12 `\documentclass[jpcaption]{jjpsy}`としてください。  
13 これにより、表のキャプションが日本語として扱われる  
14 ようになります。

15 なお、表と図の言語は統一することとされていますの  
16 で、`jpcaption` オプションを使用した場合は、表だけで  
17 なく図のキャプションも日本語扱いになります。

### 表の挿入位置

18 表を用いるときは、本文中で表について言及し、挿  
19 入希望位置を本文中に指示することになっています。  
20 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X では、本文中で「`Table\ref{表の参照キー}`に…」  
21 のようにして表の参照を行うのが一般的ですが、これだ  
22 と表の挿入希望位置を指示することはできません。そこ  
23 で jjpsy クラスでは、「`\Table{表の参照キー}`」という  
24 コマンドを用意して、表の参照と挿入位置の指示を行え  
25 るようにしています。たとえば 1 つめの表を`\Table{表`

1 の参照キー}を用いて参照すると、本文中に「Table 1」  
2 と表示されると同時に、欄外に「Table 1」を長方形で  
3 囲んだ挿入位置の指示マークが表示されます。なお、  
4 Table 1 について複数回言及したとしても、挿入位置の  
5 指示マークがそのつど表示されることはありません。  
6 表の参照位置と挿入位置を別にしたい場合、表の参  
7 照はせず表の挿入位置のみを指定したい場合には、  
8 `\tblhere{}`コマンドを使用してください。本文中の表  
9 の挿入希望位置で`\tblhere{2}`と指定すると、その行の  
10 欄外に「Table 2」の挿入指示マークが表示されます。

Table 1

Table 2

### 表の番号，表の題

11 表のページでは、表の番号は（Table 1, Table 2 な  
12 ど）の直後に改行し、題をつけることになっています。  
13 jjpsy クラスでは、この書式のとおりに表番号と題を  
14 作成します。なお、表の題の末尾にはピリオド（.）や  
15 句点（。）はつけないこととなっていますが、本クラス  
16 ファイルではこのチェックは行なっていません。

### 表の注

17 表全体に関する注は、表の後に table 環境内で`\note{}`  
18 コマンドを使用することで作成できます。本文中の脚注  
19 に使用するコマンドと同じ名前ですが、table 環境内で  
20 `\note{}`を使用した場合、その内容は表の下に「*Note.*」  
21 （日本語環境では「注」）つきで表示されます。  
22 表の特定部分に関する注（<sup>a, b, c</sup> や <sup>\*</sup>, <sup>\*\*</sup> など）は、  
23 注をつけたい箇所に`\textsuperscript{a}`、あるいは  
24 `$\sim{*}$`などを書いてマーカーを作成し、それらに関する  
25 説明を`\note{}`と`\end{table}`の間に記載してください。

## 図

1 表の場合と同様に、figure 環境 `\begin{figure}`  
2 `—\end{figure}` を使用して作成された図は、引用文  
3 献、脚注のあとにまとめて表示されます。その際、1  
4 ページにつき 1 つの図が配置されます。

### 図の言語

5 図の言語は原則として英語と指定されており、  
6 jjpsy クラスでもそのように設定されています。  
7 そのため、figure 環境で `\caption{}` コマンドを使用  
8 した場合、その内容に含まれる英数字はイタリッ  
9 ク体で表示されます。表の言語を日本語にしたい  
10 場合は、クラスオプションに `jpcaption` を指定し、  
11 `\documentclass[jpcaption]{jjpsy}` としてください。  
12 これにより、表のキャプションが日本語として扱われる  
13 ようになります。表と図の言語は統一することとされ  
14 ていますので、`jpcaption` オプションを使用した場合  
15 は、図だけでなく表のキャプションも日本語扱いになり  
16 ます。

### 図の挿入位置

17 図を用いるときは、本文中で図について言及し、挿  
18 入希望位置を本文中に指示することになっています。  
19 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X では、本文中で「Figure `\ref{表の参照キー}`に...」  
20 のようにして図の参照を行うのが一般的ですが、これだ  
21 と図の挿入希望位置を指示することはできません。そこ  
22 で jjpsy クラスでは、「`\Figure{図の参照キー}`」という  
23 コマンドを用意して、図の参照と挿入位置の指示を行え  
24 るようにしています。たとえば 1 つめの図を `\Figure{`  
25 図の参照キー}を用いて参照すると、本文中に「Figure

1 1」と表示されると同時に、欄外に「Figure 1」を長方形  
2 で囲んだ挿入位置の指示マークが表示されます。なお、  
3 Figure 1 について複数回言及したとしても、挿入位置の  
4 指示マークがそのつど表示されることはありません。

Figure 1

5 図の参照位置と挿入位置を別にしたい場合、図の参  
6 照はせず図の挿入位置のみを指定したい場合には、  
7 `\fighere{}` コマンドを使用してください。本文中の図  
8 の挿入希望位置で `\fighere{2}` と指定すると、その行の  
9 欄外に「Figure 2」の挿入指示マークが表示されます。

Figure 2

### 図の番号，図の題

10 表のページでは、図の番号は（Figure 1, Figure 2 な  
11 ど）の直後に改行し、題をつけることになっています。  
12 jjpsy クラスでは、この書式のとおりに表番号と題を作  
13 成します。なお、表の題の末尾にはピリオド（.）や句点  
14 （。）はつけませんが、本クラスファイルではこのチェッ  
15 クは行なっていません。また、2022 年版の手びきから、  
16 図の番号と題は表と同様に図の上につけることになって  
17 いるので注意が必要です。`\includegraphics{}`などを  
18 用いて図を挿入する場合には、`\caption{}`の後に行う  
19 ようにしてください。

### 図の注

20 図全体に関する注は、figure 環境内で `\note{}` コマン  
21 ドを使用することで作成できます。本文中の脚注に使用  
22 するコマンドと同じ名前ですが、figure 環境内で図の後  
23 に `\note{}` を使用した場合、その内容は図の下に「*Note.*」  
24 （日本語環境では「注」）つきで表示されます。

25 図の特定部分に関する注（a, b, c や \*, \*\* など）に関す  
26 る説明は、`\note{}` と `\end{table}` の間に記載してくだ  
27 さい。



## 文献の引用

1 文献の引用を効率化するには、『心理学研  
2 究』の文献引用書式にそった Bib $\text{\LaTeX}$  用スタ  
3 イルファイルである biblatex-jpa が便利です。  
4 biblatex-jpa を使用するには、biblatex-jpa の関  
5 連ファイル (jpa.bbx, jpa.cbx, jpa.dbx) を  $\text{\LaTeX}$   
6 管理下のフォルダに置き、プリアンブルで  
7 「`\usepackage[backend=biber,style=jpa]{biblatex}`」  
8 と指定してスタイルファイルを読み込みます。また、文  
9 献情報を記載した .bib ファイルを `\addbibresource{}`  
10 で指定します。

11 本文中で `\textcite{}` または `\parencite{}` で文献を参  
12 照すると、その文献が書式にそって本文中に引用され  
13 ます。また、文献の挿入位置（通常は考察の後ろ）で  
14 `\printbibliography[title=引用文献]` として指定する  
15 ことにより、整形された文献リストが作成されます。  
16 biblatex-jpa の詳細については、biblatex-jpa のマ  
17 ニュアルを参照してください。

## まとめ

18 jjpsy クラスは、『心理学研究』投稿用の原稿を作成  
19 する際の細々した設定をできるだけ自動化できるよう作  
20 成したものです。本クラスファイルが用意しているのは  
21 非常に基本的な機能のみですが、 $\text{\LaTeX}$  は非常に自由度  
22 の高い組版ツールです。足りない部分、気に入らない部  
23 分は、各自で設定を追加したり、変更したりしていけば  
24 よいでしょう。

## 引用文献

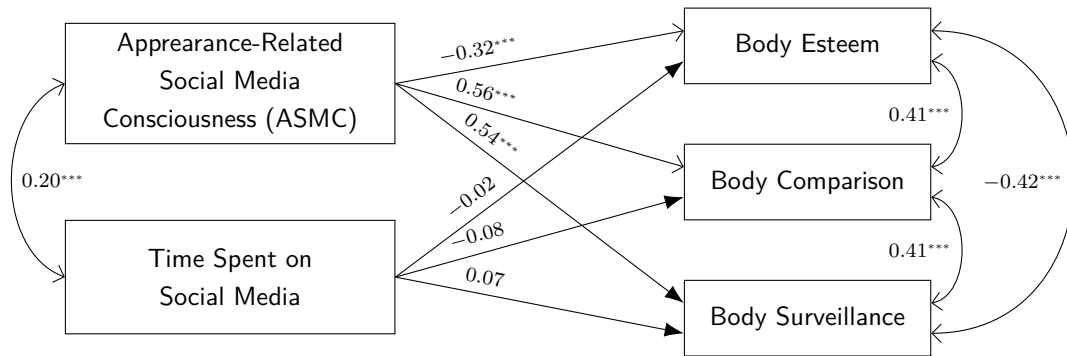
- 1 日本心理学会 (2022). 執筆・投稿の手びき 2022 年版
- 2 Retrieved October 25, 2022 from <https://psych.or.jp/>
- 3 manual/

## 脚注

- 1 1. 助成金についての情報は、表題への注として作成  
2 されます。
- 3 2. 学会発表などの情報についても、表題への注釈と  
4 して作成されます。
- 5 3. 謝辞は第 1 著者名への注として作成されます。た  
6 だし、ただし、投稿原稿に著者情報は記載しませんの  
7 で、「\thanksnote{ }」コマンドは脚注のみを原稿の末尾  
8 に付加します。
- 9 4. 改姓、改名や所属機関の変更については、該当す  
10 る著者名に注をつける形で記載します。ただし、投稿原  
11 稿に著者情報は記載しませんので、「\authornote{ }」コ  
12 マンドは脚注のみを原稿の末尾に付加します。実際の使  
13 用に当たっては、「(著者情報を含むため削除)」と記載  
14 しておくか、注そのものを使用しないかのいずれかにな  
15 るでしょう。
- 16 5. 段落内で序列をつけるコマンドに合わせて用意し  
17 てありますが、\enumerate 環境でも同じ結果が得られ  
18 るはずです。
- 19 6. 表題の注，謝辞，所属変更など。

Figure 1

*Path Analysis Model of Associations Between ASMC and Body-Related Constructs*



*Note.* The path analysis shows associations between ASMC and endogenous body-related variables (body esteem, body comparison, and body surveillance), controlling for time spent on social media. Coefficients presented are standardized linear regression coefficients. Adapted from APA Style: Sample Figures. <https://apastyle.apa.org/style-grammar-guidelines/tables-figures/sample-figures>

$^{***}p < .001$ .

Table 1

*Moderator Analysis: Types of Measurement and Study Year*

Effect	Estimate	SE	95% CI		p
			LL	UL	
Fixed effects					
Intercept	.119	.040	.041	.198	.003
Creativity measurement <sup>a</sup>	.097	.028	.042	.153	.001
Academic achievement measurement <sup>b</sup>	−.039	.018	−.074	−.004	.03
Study year <sup>c</sup>	.0002	.001	−.001	.002	.76
Goal <sup>d</sup>	−.003	.029	−.060	.054	.91
Published <sup>e</sup>	.054	.030	−.005	.114	.07
Random effects					
Within-study variance	.009	.001	.008	.011	<.001
Between-study variance	.018	.003	.012	.023	<.001

*Note.* Number of studies = 120, number of effects = 782, total N = 52,578. CI = confidence interval; LL = lower limit; UL = upper limit. Adapted from APA Style: Sample Tables. <https://apastyle.apa.org/style-grammar-guidelines/tables-figures/sample-tables>

<sup>a</sup>0 = self-report, 1 = test. <sup>b</sup>0 = test, 1 = grade point average. <sup>c</sup>Study year was grand centered. <sup>d</sup>0 = other, 1 = yes. <sup>e</sup>0 = no, 1 = yes.